

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第2区分
【発行日】令和7年6月10日(2025.6.10)

【公開番号】特開2025-24102(P2025-24102A)
【公開日】令和7年2月19日(2025.2.19)
【年通号数】公開公報(特許)2025-031
【出願番号】特願2024-199397(P2024-199397)
【国際特許分類】

A 6 1 K 31/381(2006.01)

10

A 6 1 P 25/18(2006.01)

A 6 1 P 25/00(2006.01)

A 6 1 P 25/14(2006.01)

A 6 1 P 25/28(2006.01)

A 6 1 P 25/30(2006.01)

A 6 1 P 25/24(2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/381

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/00

20

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/30

A 6 1 P 25/24

【手続補正書】

【提出日】令和7年6月2日(2025.6.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

30

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

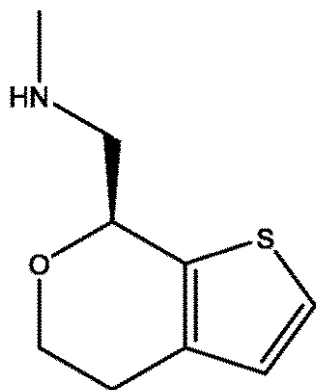
【請求項1】

神経もしくは精神疾患または障害の治療において、治療を必要とする患者の臨床的に重大な心血管有害事象のリスクを最小限に抑えるために使用する化合物1：

40

50

【化 1】



化合物 1

10

またはその薬学的に許容できる塩の治療有効量を含む医薬組成物であって、

化合物 1 またはその薬学的に許容できる塩の治療有効量が、患者に投与可能であるように適合されており、臨床的に重大な心血管有害事象が、心房性頻脈、徐脈、心血管不全、動悸、起立性頻脈症候群、血圧上昇、高血圧、のぼせ、QT 延長、または起立性頻脈である、医薬組成物。

20

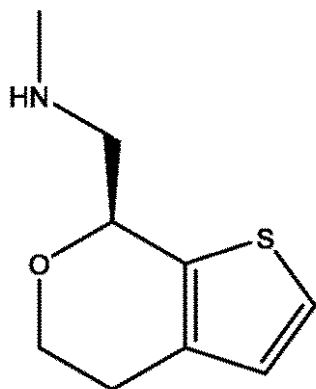
【請求項 2】

重大な心血管有害事象が QT 延長である、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 3】

患者の神経もしくは精神疾患または障害の治療において、ドーパミン D₂ に親和性を有する抗精神病薬に関連することが一般的に知られている心血管有害事象を最小限に抑えるために使用する化合物 1：

【化 2】



化合物 1

30

40

またはその薬学的に許容できる塩の治療有効量を含む医薬組成物であって、

化合物 1 またはその薬学的に許容できる塩の治療有効量が、患者に投与可能であるように適合されており、心血管有害事象が、心房性頻脈、徐脈、心血管不全、動悸、起立性頻脈症候群、血圧上昇、高血圧、のぼせ、QT 延長、または起立性頻脈である、医薬組成物。

【請求項 4】

重大な心血管有害事象が QT 延長である、請求項 3 の医薬組成物。

【請求項 5】

神経もしくは精神疾患または障害が統合失調症である、請求項 1 または 3 の医薬組成物

50

。

【請求項 6】

神経もしくは精神疾患または障害が、統合失調症スペクトラム障害、統合失調症陰性症状、減弱精神病症候群、前駆統合失調症、妄想性障害、精神病、精神病性障害、精神錯乱、トゥレット症候群、外傷後ストレス障害、行動障害、情動障害、うつ病、双極性障害、大鬱病性障害、気分変調症、躁病、季節性情動障害、強迫性障害、ナルコレプシー、REM 行動障害、物質濫用または依存状態、Lesch-Nyhan 疾患、ウィルソン病、自閉症、アルツハイマー病激越および精神病、またはハンチントン舞踏病である、請求項 1～5 のいずれかの医薬組成物。

【請求項 7】

神経もしくは精神疾患または障害が、統合失調症、減弱精神病症候群、前駆統合失調症、スキゾイドパーソナリティ障害および統合失調症性パーソナリティ障害から選択される、請求項 1～6 のいずれかの医薬組成物。

【請求項 8】

精神病が、器質性精神病、薬物誘発性精神病、パーキンソン病精神病および興奮性精神病から選択される、請求項 7 の医薬組成物。

【請求項 9】

化合物 1 またはその薬学的に許容できる塩が、化合物 1 の HCl 塩を含む、請求項 1～8 のいずれかの医薬組成物。

【請求項 10】

使用において、プラシーボとほとんど同じまたは同様の割合で患者に心血管有害事象が生じる、請求項 1～9 のいずれかの医薬組成物。

10

20

30

40

50